

平成24年度 大学生による小・中学校での学習支援の充実に 向けた情報交換会の開催結果について

1 目的

大学と市町村教育委員会の担当者同士が情報交換することで、小・中学校現場において多くの大学生に学習支援に参加してもらうことを目的に開催した。

2 会場・出席者

平成24年5月に実施した事前アンケートの結果では、大学及び市町村教育委員会の双方から、意見交換したい相手として「近隣の市町村教育委員会」「近隣の大学」が多かったため、県内の2会場で開催した（希望により両方の会場に出席が可能）。

- ・三河会場：10月31日（水）愛知県西三河総合庁舎（岡崎市）
8大学及び14市町村教育委員会が出席
- ・尾張会場：11月8日（木）愛知県三の丸庁舎（名古屋市中区）
25大学及び20市町村教育委員会が出席
2大学は両会場に出席

3 当日の流れ

大学生による学習支援に取り組んだ実績のある大学（愛知淑徳大学、中部大学）及び市町村教育委員会（豊川市）から事例発表をしてもらい、その後、出席者が6～8名ずつのグループに分かれて情報交換を行った。

各グループでは、「平成25年度以降の学生ボランティア募集について」「学生の募集方法について」「大学での単位認定について」「学生の保険の扱いについて」などの情報交換を行った。

4 出席者アンケートの結果の概要（回答数：69人）

① 情報交換会に参加した目的

・「既に実施している取組を充実させていくため」が55.1%、「新たに取り組を始めていく予定のため」が21.7%、「取組の予定はないが情報収集するため」が18.8%となった。

② 本日の情報交換会に参加して良かった点（複数回答可）。

<大学側の出席者>

・「市町村教育委員会の25年度の募集概要を知ることができた」が61.8%、「これまで活動したことがない小・中学校で学生が活動していくきっかけとなった」及び「既に学生が活動している小・中学校での人数を増やすきっかけとなった」が23.5%となった。

<市町村教育委員会側の出席者>

・「大学生への募集情報のPR方法を見直すきっかけとなった」が51.4%、「これまで受け入れたことのない大学から学生を受け入れていくきっかけとなった」が28.6%、「小・中学校で既に受け入れている大学からの学生を増やすきっかけとなった」が22.9%となった。

③ 今回の情報交換会を踏まえて、今後取り組んでいこうとする具体的な取組について

<大学側の出席者>

- ・学生のボランティア活動を一層推進していきたい。
- ・これまでボランティア活動と教職とは別に考えてきたので、つながりを持たせることができるか考えたい。
- ・情報交換会で得た情報等を学生に周知する方法を検討（メールでの情報配信等）をすすめていきたい。
- ・本日の資料を持ちかえて今後の検討材料とさせて頂きたい。

<市町村教育委員会側の出席者>

- ・大学との情報交換を進めたい。
- ・インターンシップ学生の受入れ。
- ・募集チラシ作り。
- ・あいちの学校連携ネットへ載せるようにしたい。
- ・HPを学校に紹介する。

④ 「あいちの学校連携ネット」について

・「今後活用していきたい」が65.2%、「既に活用している」が21.7%、「特に活用する予定はない」が7%、「サイトを改善してほしい」が4%となった。

⑤ 来年度の情報交換会について

・「参加したい」が88.4%、「参加したくない」が1%、「その他」が10.1%となった。

～ は、 で「参加したい」を選択した場合のみ回答

⑥ 開催時期について(複数回答可)。

・「9月～12月」が49.3%、「4～6月」が23.2%、「7～8月」が21.7%となった。

⑦ 開催会場について

・「尾張会場と三河会場の各1地区で開催」が59.4%、「県内全域を対象に名古屋市内で開催」が30.4%となった。

⑧ 開催内容について

・「グループ協議と全体での協議」が79.4%、「グループ協議のみ」及び「全体での協議のみ」が7%となった。

平成25年度 大学生による小・中学校での学習支援の充実に 向けた取組案について

1 大学と市町村教育委員会による情報交換会の開催

平成24年度の情報交換会に参加した大学及び市町村教育委員会向けにその後の具体的な動きを調査した上で（別途依頼）、その結果をもとに平成25年度も引き続き開催することとしたい。

なお、平成25年4月より教職課程を有する大学において「教職実践演習」に関する科目が設けられ、学校や教育委員会との連携・協力により学校現場の視点を取り入れた内容を行っていくこととなるため、こうした動きも踏まえて情報交換を行いたい。

(1)開催日・会場

平成24年度と同様に、10月から11月にかけて尾張地区及び三河地区の県内の2会場で開催する（希望により両方の会場に出席が可能）。

(2)出席者

市町村教育委員会が希望する大学との情報交換をできるように、始めに大学から出席をとり、両会場の参加大学を市町村教育委員会に知らせた後、市町村教育委員会の出席を募集する。

(3)当日の流れ

平成24年度の参加者アンケート結果によると「グループ協議と全体での協議」を望む声が多かったので、これを踏まえて以下の流れとしていきたい。

グループ協議

- 出席者6～8名を1つのグループとし、テーマに基づいて情報交換並びに協議を行う。
- グループは、大学と市町村教育委員会をほぼ同数にする。
- グループ協議のテーマは、全グループに統一したテーマで協議する方法と、グループごとにテーマを変えて協議する方法があるため、大学・市町村教育委員会の出欠席を把握する際に「協議したいテーマ」を募集し、その状況に応じて、上記2つの方法のうち、いずれかを選択する。

<テーマ例>

- ・平成26年度以降の学生ボランティア募集について
- ・学生の保険の扱いについて
- ・学生の募集方法について

全体協議

グループ代表者が各グループの協議内容を発表した後、全体での質疑応答の場を設定する。

市町村教育委員会、大学による個別の情報交換を行う。

2 大学の学生向けメール配信システムを利用したボランティア募集情報の提供

より多くの大学生に学習支援活動へ参加してもらえるよう、希望する大学に協力いただき、「あいちの学校連携ネット」に掲載している市町村教育委員会の大学生のボランティア募集情報を、月に1回程度、学内の学生向けメール配信システムを通じて、直接学生に情報提供をしていきたい。

具体的には、県教育委員会から、サイトに掲載中の市町村教育委員会のボランティア募集情報の概要と「あいちの学校連携ネット」のURLを掲載した送信用データを大学に提供し、大学のメール配信システムにより登録している学生のアドレス（携帯又はPC）に一斉送信をしていただく。

なお、協力いただける大学については別途募集する（別途依頼）。

今後のスケジュール（案）

- 2月 アンケート調査の実施
- 3月 協力していただける大学との調整
- 4月～ メール配信の開始

3 「あいちの学校連携ネット」上でのボランティア申込み機能の追加（予定）

「あいちの学校連携ネット」のシステム改修を行い、大学生のボランティア募集のページにおいて、学生が活動を希望する市町村教育委員会に直接サイト上で申込みができる機能を追加していきたい。